

- 調査期間 2023年10月～12月実績 2024年1月～3月見通し
- 調査時点 2023年12月
- 調査対象 西濃を中心とした地域の当金庫取引先事業所
- 調査方法 アンケート調査  
前期(3ヶ月前)・前年同月(12ヶ月前)とを比較した質問を実施。
- 回答企業数 578 (回答率 96.3%)
- 調査結果

回答企業の内訳						
製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計
197	38	106	92	123	22	578

対象企業の地域					
大垣市	瑞穂市	本巣市	海津市	養老郡	
240	21	70	16	40	
不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	その他	合計
28	50	94	15	4	578

景気の状態と今後の見通し	
<b>全産業総合</b>	<p>▶概況 全産業の3か月前との比較で見た業況判断DIは、3.6となり前期1.0と比べ悪化した。業種別業況では、製造業、小売業、不動産業は前回調査より悪化した。卸売業については厳しい状況になった。全産業総合の個別項目については、生産・売上DI(前期3.9⇒8.5)、収益DI(前期▲5.8⇒▲5.4)、資金繰りDI(前期▲6.7⇒▲6.3)と、生産・売上上の項目については悪化、他の項目についても前期より悪化傾向にあるが悪化幅は小さい。生産・売上上の増加が収益の増加や資金繰りの安定に繋がっていないことから、物価高を価格転嫁できていない状況が窺える。全産業総合における今後3か月の予想では、全項目において悪化は無いが、収益、資金繰り項目は引き続き厳しい状況が続く見通しである。設備投資の今後の実施予定については1.4%と前期2.5%より減少予定。設備導入における目的については、「合省力化」が最も多く、燃料、光熱費高騰や、人手不足に対して、設備導入による解決を検討している状況が窺える。</p>
<b>製造業</b>	<p>▶概況 製造業全体の業況判断DIは6.6と前期より1.5悪化した。今後の見通しについても8.6と悪化傾向に推移している。一方で製造業内での今期業況判断DIは、窯業・土石(前期▲44.4⇒44.4)、金属製品(前期▲12.5⇒10.0)と大幅な上昇に対し、左記以外の製造業については減少傾向となり、製造業内においても業況について大きな差がある事が窺える。</p> <p>▶製造業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先からの受注が増加し増収となるも、原材料高騰の影響を受け減益。価格転嫁の交渉を継続しているが、収益が改善するほどの成果には繋がっていないなどの声が多数あった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染症5類への移行により祭事などが再開し、受注増加に繋がった。一方で人手不足は解消されていない状況が続いている。</li> <li>・業務効率化に向けたDX化が必要である認識はあるが、DX化に対応できる人材が不足しているなど人材不足に対する課題が見受けられた。</li> </ul>
<b>卸売業</b>	<p>▶概況 卸売業の業況判断DIは▲13.2と前期▲2.6より悪化。今後の見通しについては、▲2.6と悪化傾向にあると見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期▲5.3、今期▲2.6、今後の見通し2.6と悪化。収益についても前期▲18.4、今期▲13.2、今後の見通し▲7.9と悪化傾向にあるも物価高の影響により、引き続き厳しい状況が続く見通しである事が窺える。</p> <p>▶卸売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原価高騰に対し販売単価が合っていない、卸売業を飛ばした直接取引の増加など、今後も厳しい状況が続くと予想しているコメントが多数見受けられた。</li> <li>・インバウンド需要の高まりにより、外国人観光客向け商品の展開を進めているなど、方針転換を進めているコメントも見受けられた。</li> <li>・国内消費者の購買意欲の低下を懸念しているコメントも見受けられ、需要の回復には時間を要することが窺える。</li> </ul>
<b>小売業</b>	<p>▶概況 小売業の業況判断DIは1.9と前期▲10.3より悪化。今後の見通しについても6.6と引き続き悪化を見込んでいる。生産・売上DI値は、前期▲7.5、今期8.5、今後の見通し15.1と悪化傾向が続く見通しとなっている。コメントからは、円安などの影響により消費が冷え込んでいる。企業の賃上げにより消費が戻れば、小売業の業界も上向くだろうと、今後の回復に期待している意見が見受けられた。</p> <p>▶小売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベントの復活により、売上増加の見込みとのコメントが見受けられる一方で、経費の削減が課題であり、紙媒体で発行していたチラシなどを電子媒体のみでの情報発信に切り替えるなど、経費削減を行うコメントが見受けられた。</li> <li>・単価の安い商品の売れ行きは好調である一方で、今後更に売上を増加させるためには、商品に付加価値を付けるなどの課題が見受けられた。</li> <li>・飲食業の売上は回復傾向にあるとのコメントがいくつか寄せられたが、思ったより売上が伸び悩むなどのコメントもあり、取り扱い商材によって売上回復傾向の濃淡が見受けられる。</li> </ul>
<b>サービス業</b>	<p>▶概況 サービス業の業況判断DIは▲2.2と前期0.0より悪化。今後の見通しについては0.0と悪化を見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期5.3、今期7.6と悪化であるが、今後の見通しは5.4と悪化の見通し。収益DIについては、前期▲14.9、今期▲2.2悪化。今後の見通し0.0と回復傾向を見込んでいる。コメントからは、運送業を中心とした2024年問題による人手不足の影響が懸念されている。</p> <p>▶サービス業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運送業については、原油高と人手不足について懸念するコメントが多く見受けられ、大手企業に受注が集中するのではないかと懸念している声も上がっている。また、人手不足は運送業以外でも見受けられ、従業員の確保については引き続き厳しい状況が続くと考えられる。</li> <li>・中古車価格は落ち着きつつあるが、新車価格は上昇傾向にあり、未だコロナ禍より高値で推移している。</li> </ul>
<b>建設業</b>	<p>▶概況 建設業の業況判断DIは8.9、前期8.9と横ばい。今後の見通しについては11.4と悪化を見込んでいる。項目別では、生産・売上DIが前期10.6、今期10.6と横ばい。今後の見通しは14.6と悪化が見込まれる。収益DIについては前期3.3、今期5.7、今後の見通し7.3と悪化傾向にある。コメントからは、公共事業減少における競争の激化、人手不足の声が見受けられた。</p> <p>▶建設業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材高騰分の価格転嫁が困難であり、仕入先と適宜交渉しているが、難航しているなど仕入価格の高騰に対する課題が見受けられた。また、慢性的な人手不足であり、特に若手や有資格者の採用が課題など、人材に対する課題も見受けられた。</li> <li>・一般住宅については、資材の高騰により住宅の価格が上昇しており、住宅購入の需要が低下するのではないかと懸念しているコメントも見受けられ、受注の確保も課題であることが窺える。</li> </ul>
<b>不動産業</b>	<p>▶状況 不動産業の業況判断DIは9.1と前期▲13.0より回復傾向にある。一方で今後の見通しは4.5と悪化を見込んでいる。経営上の問題点では、「売上・受注の減少」が63.6%と、他の業種と比較し高い水準となっている。コメントからは、新築住宅の受注件数減少などの消費活動の冷え込みは不動産業にも影響を与えている事が窺える。</p> <p>▶不動産業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地などの売買についての相談件数は増加傾向にあるが、賃貸物件については、空室が多くなっている。将来的にも人口減少に伴う需要の低下を懸念しているコメントが見受けられ、今後も厳しい状況が続くことが窺える。</li> <li>・材料価格は依然として高い状況にあるが、材料不足については解消されている。一方で引き続き人材が不足しているコメントも見受けられた。</li> </ul>

図表1 景況DI値

業種	業況			生産・売上			収益			資金繰り		
	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し
全産業総合	1.0	3.6	6.6	3.9	8.5	11.4	▲5.8	▲5.4	▲5.4	▲6.7	▲6.3	▲6.0
製造業総合	5.1	6.6	8.6	8.6	9.6	11.7	▲4.0	▲2.1	▲1.0	▲6.6	▲5.6	▲5.1
食料品製造	26.7	17.6	11.8	26.7	5.9	5.9	6.7	▲5.9	▲5.9	0.0	5.9	0.0
衣服その他繊維製品	▲7.1	▲11.1	11.1	0.0	▲11.1	11.1	▲14.3	▲22.2	0.0	▲14.3	▲11.1	▲11.1
窯業・土石	▲44.4	44.4	44.4	▲44.4	44.4	44.4	▲55.6	33.3	33.3	0.0	▲22.2	▲44.4
金属製品	▲12.5	10.0	13.3	▲8.3	16.7	23.3	▲8.3	▲3.3	0.0	▲12.5	▲6.7	▲6.7
金属プレス・メッキ	20.0	0.0	10.5	30.0	5.3	10.5	0.0	▲15.8	▲5.3	▲10.0	5.3	15.8
その他製造業	▲3.4	▲6.7	▲16.7	▲3.4	▲3.3	▲10.0	▲10.3	▲13.3	▲26.7	▲17.2	▲13.3	▲6.7
卸売業	▲2.6	▲13.2	▲2.6	▲5.3	▲2.6	2.6	▲18.4	▲13.2	▲7.9	▲5.6	▲5.6	▲11.1
小売業	▲10.3	1.9	6.6	▲7.5	8.5	15.1	▲11.2	▲3.8	▲0.9	▲13.2	▲12.6	▲12.6
サービス業	0.0	▲2.2	0.0	5.3	7.6	5.4	▲14.9	▲2.2	0.0	▲16.0	▲3.3	▲4.3
建設業	8.9	8.9	11.4	10.6	10.6	14.6	3.3	5.7	7.3	▲1.6	▲3.3	▲1.6
不動産業	▲13.0	9.1	4.5	▲8.7	9.1	13.6	▲13.0	0.0	4.5	▲13.0	0.0	0.0

今後の見通しは今期DI値と比較してDI値がプラスの場合は▲ マイナスは▲ 0は□ で表記。

図表2 設備投資の状況

業種	設備投資			
	今期実施割合	投資の内訳(最も多いもの)	設備の目的(最も多いもの)	今後の実施予定
全産業総合	2.5%	機械の新・増設	合省力化	1.4%
製造業総合	3.6%	機械の新・増設	合省力化	2.5%
卸売業	2.7%	店舗事務所その他	拡販投資	0.0%
小売業	0.0%	その他	—	0.9%
サービス業	2.2%	その他	合省力化	1.1%
建設業	3.3%	機械の新・増設	合省力化 拡販投資	0.8%
不動産業	—	—	—	—

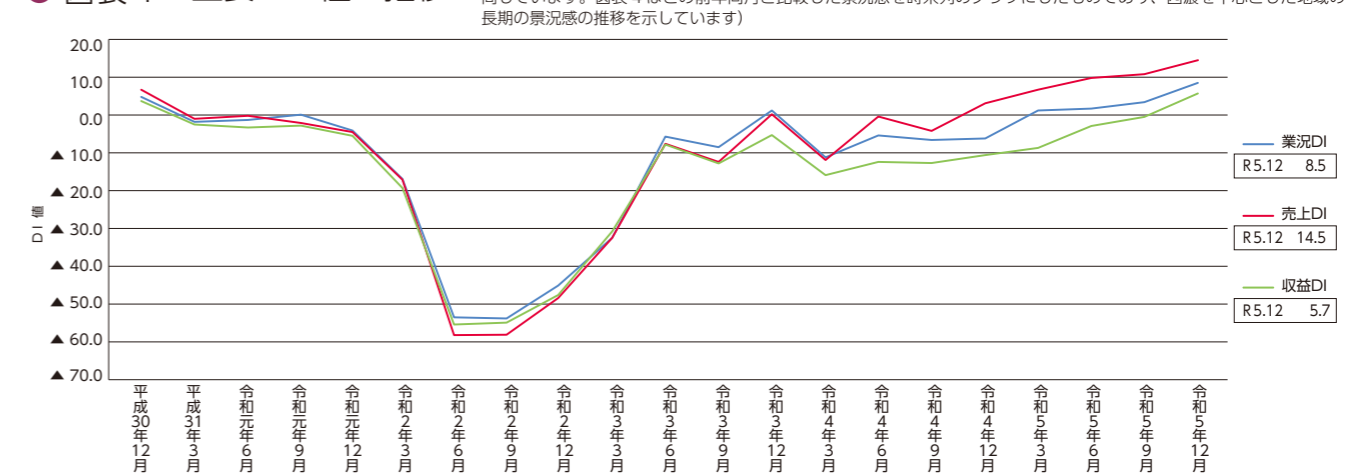
(今後の実施予定は今期実施割合と比較して増加する場合は▲ 減少する場合は▲ 変わらない場合は□ で表記)

図表3 経営上の問題点

業種	経営上の問題点							
	売上・受注の減少		人手不足		競争の激化		その他	
	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較
全産業総合	42.7%	▲	37.2%	▲	14.0%	▲	3.8%	▲
製造業総合	38.6%	▲	44.2%	▲	5.1%	▲	3.0%	▲
卸売業	36.8%	▲	34.2%	▲	15.8%	▲	2.6%	▲
小売業	40.6%	▲	16.0%	▲	32.1%	▲	7.5%	▲
サービス業	45.7%	▲	48.9%	▲	4.3%	▲	3.3%	▲
建設業	47.2%	▲	37.4%	▲	17.9%	▲	1.6%	▲
不動産業	63.6%	▲	31.8%	▲	22.7%	▲	9.1%	▲

(前期との比較は前回調査と比較して増加している場合は▲ 減少している場合は▲ 変わらない場合は□ で表記)

図表4 主要DI値の推移



(調査の分析は3か月前と比較した回答結果を中心におこなっています。しかし3か月前との比較は季節的な要因を含んでおり長期の景況感の変化を見るため、業況・売上・収益の3項目については、前年同月と比較してどうだったのかを質問しています。図表4はこの前年同月と比較した景況感を時系列のグラフにしたものであり、西濃を中心とした地域の長期の景況感の推移を示しています)